

書評

瀬戸健一 著
『図説問題行動対処法 Q&A』

風間書房, 2016年

静岡大学 安田元気



現代社会において、価値観の多様化、社会規範の希薄化、急速な情報化などが複雑に絡み合っ
て進行する中、学校における生徒指導の問題は多様化し、その対応もますます困難になっている。
問題行動に直面する現代の教師には、実践的な指導力のみならず、理論的な知識も求められてお
り、その融合を図ることがいっそう重要になってきている。

本書は、Q(問い) & A(答え)という形で事例を検討することにより、そのような実践と理論の
融合に果敢に挑む良書である。しかし、本書が真の意味で焦点を当てているのは、理論でも実践
でもなく、教師そのものである。生徒指導の諸問題に苦悩し、逡巡する教師の実態がつぶさに描
かれている。章立てを見てみると、「あなたが担任の場合、服装や頭髪指導を、どう理解します
か」、「指導観の違いをどのように理解しますか」、「あなたが担任の場合、児童の気持ちをどう理
解しますか」、「新しいタイプの保護者との連携をどう理解しますか」、「組織的な生徒指導を、ど
う考えますか」、「職場の人間関係が上手くいかない場合、どう考えますか」、「異なる教育観の他
者と、どう連携していきますか」、「生徒指導の2つの視点をどのように理解しますか」となっ
ており、そこには教師の悩ましい現実の姿がある。

しかし、各章の悩ましいQ(問題)に対して、本書は、明確なA(解決)を示すことを意図的にた
めらっているように思える。これはいったいどういうことであろうか。

実は、本書が目論むのは、問題行動の解決そのものではない。本書が真に目指しているのは、
生徒指導の事例の共有、それに基づく教師自身の省察による教育観や指導観の自覚、さらには教
師間の認識のズレへの気づき、そして、それらを通じた教師の協働の獲得である。これは、明示
的なA(解決)を示すことがそのためにはかえって逆効果になりうるという著者の深い洞察に基づ
いている。問題行動の対処に必要なのは、教師たちが、たった一つの具体的解決策を共有するこ
とではなく、目指す生徒像の共有をした上で、具体的な対処法の教師ごとの違いを認知すること
である。教師が協働するためには、教師間においてまず何が異なり、何が同じなのかを省察し、
話し合うことが重要であると、本書は伝えている。本書の事例は、そのために活用すべきであろ
う。つまり、問題行動のA(解決)を見出すのは、本書ではなく、読者である。実践と理論を融合
させるのは、本書ではなく、読者である。よって、本書は、一人で読むより、複数で読んだ方が
よい。それゆえ教職大学院のテキストとして最適のものであろう。

なお、本書に先立って、著者は、『協働性にもとづく学校カウンセリングの構築—高校におけ
る学校組織特性に着目して—』(風間書房, 2006), 『生徒指導のための実践テキスト—教師の実践
と理論の融合を目指して—』(風間書房, 2007), 『協働的指導のための実践テキスト—エピソード
から学ぶ生徒指導』(風間書房, 2010)を出版している。本書もこれらの系譜に位置づけられるもの
であることを最後に付言しておく。